

アーカイブズの拠点へ

武庫川女子大学附属総合ミュージアムは、収蔵資料のデジタルアーカイブ化を積極的に推進しています。表から見える展示や講演会、サロンなどの企画を支えるバックヤードの仕事の一つとして、燻蒸や収蔵物管理と並ぶ基盤業務の一つであり、日常的に取り組んでいます。取り分け最近では、知的・文化的財産としての資料の活用が学内のみでなく、社会的にも要請されており、収蔵資料のアーカイブ化は喫緊の要請になっているのです。むしろ現実には、紙面の関係で具体的には言及しませんが、具体的な働きかけも含め、社会的な要請のほうが強いと感じています。

情報化の進展については、教育・研究環境においても不可逆的な動向であり、今更申し上げるまでもないことですが、足下の情報環境のデジタルアーカイブ化の推進が喫緊の課題であると考えています。M (Museum)・L (library)・A (Arcives) 連携の推進もその一つで、このこと一つを取り上げても、本学独自の理

念と制度を構築するには、目くるめくようなエネルギーが必要だと思います。しかし、学内外に亘る教育・研究におけるダイバーシティの実現やグローバルな展開は、デジタルアーカイブ化の推進と表裏一体のものだと思います。簡単に言えば、大学ぐるみの柔軟な公開と連携の実現といえるのではないのでしょうか。大風呂敷を広げた、中期計画における「全学ミュージアム化」の構想は、当館の夢でしょうか。

現実として当館では、デジタルアーカイブ化の推進に取り組み、昨年度から5年間の文化庁の助成を受け、登録文化財「武庫川女子大学衣生活資料」の現物確認に取り組んでいます。さらに、当令和7年9月2日から、「民具・中田家資料」のデジタルアーカイブ推進事業が、文化庁の「Innovate MUSEUM 事業」として採択されました。鋭意、本学独自のアーカイブズ構築に向けて、館員一同邁進していく所存です。みなさまのご支援、ご協力をお願いいたします。

館長 横川公子



1階ロビー
2025年常設展示コーナー
夏季企画
「夏のおでかけ」
*展示は終了しました

夏に着るきものは、絹や紗といった織物が用いられます。これらは振り織（絡み織とも）という技法で織られたもので、織り方に多少の違いはありますが、いずれも通気性のよいのが特徴です。

このたびの展示では、夏のおでかけの際に着られた絹と紗のきものをご紹介します。さらに、10月18日まで開催されている大阪・関西万博にちなんで、過去の博覧会に関連する資料も展示しました。展示資料の詳細は、HPの「発行物一覧」ページにある「ミュージアムコラム」でご紹介していますので、ぜひご覧ください。（並木）



展示風景



展示風景

講演会 「わたしたちの博物館とは I 生活文化 × 博物館」を 開催しました

附属総合ミュージアムは、本学で学芸員資格の取得を目指す学生が履修する「学芸員課程」を担っています。そこで、「学芸員」とはどのような役割を果たしているのか、大学ミュージアムである当館をはじめ、教育・研究機関としての博物館とはどのようなものなのかについて、博物館教育論や美術館運営学、芸術メディア論がご専門の大高幸先生（放送大学客員准教授／ミュージアム共同研究員）に「わたしたちの博物館とは I 生活文化 × 博物館」というタイトルでご講演いただき、学芸員課程を履修している学生に加え、一般の方や附属中学の生徒など、58名の参加がありました。

まず、本学で学芸員課程を履修している学生などにおこなった事前アンケートをもとに、「自由時間の好きな過ごし方」や「休日にでかけるお気に入りの場所」などを取り上げ、そのアンケート結果からは「知的な遊びを享受している」「様々な興味関心・体験をもつ「一人十色」な様子」「個と社会性のバランスがみられる」…など幅広い生活文化が読み取れることをお話されました。また大高先生のこれまでのご研究について具体的な事例をふまえてご紹介いただき、「今日における文化装置としての博物館の役割」には「知的な余暇の場」「知的な冒険の場」「他者との意見交換の場」というものがあるとご説明いただきました。その後、参加者が2人1組になり、それぞれの大切なものについて説明をしあうワークショップもおこない、最後には、学芸員の仕事とは「茶会の亭主」であると例えられ、資料に関する高度な知識やコミュニケーション能力を有する「研究・教育専門職」であるとお話いただきました。

なかでも大学ミュージアムは、博物館・美術館施設のなかでも特に研究に特化した施設であると述べられ、大学教員との関係性がより活発なこと、図書館との連携が強いこと、展示や研究の幅が多岐に渡ることなどを事例とともにお話いただいたことは、大学ミュージアムとして今後当館が取り組むべきことや現状の課題、大きな可能性などを認識させていただきました。（並木）

*本講演会の内容は、紀要第7号（2027年3月発行予定）に掲載予定です。



写真（右・左） 講演会の様子



さがしてみよう！

武庫川ヒストリー vol.4



Museum News no.12 に掲載した「武庫川ヒストリー vol.3」では、附属図書館前にある「みどりのリズム」という像をご紹介しました。こちらの像が何を記念して設置されたものか、ご存知でしたか？ 答えは、「公江記念講堂竣工記念」でした。作者の清水多嘉示（1897～1981）は、長野県生まれの彫刻家です。最初は画家を志して渡仏し、その後彫刻家志望に転向しました。1980 年には文化功労者として顕彰されています。附属図書館前にある「みどりのリズム」は本学以外にも長野県内や東京・上野公園、大阪城公園など日本各地にあります。



「みどりのリズム」（清水多嘉示 作）

4 回目の「武庫川ヒストリー」では、ミュージアムが所蔵する学院資料をご紹介します。ミュージアムは、近代衣生活資料や生活文化資料などに加え、学院の歴史に関する様々な資料も所蔵しています。今回ご紹介する資料は「復興計画 兵庫縣 私立武庫川高等女学校」です。さて、この資料は「何からの復興」を計画したのでしょうか？ ヒントは、今年は〇〇80年…です。



「復興計画 兵庫縣 私立武庫川高等女学校（白）」
（当館所蔵）

資料の燻蒸をおこないました



ミュージアムが果たすべき重要な役割のひとつに、「資料の保存」があります。資料に虫やカビがついてしまうと、そこから資料が劣化し、破損の原因になります。防虫・防カビのためには、収蔵環境を整えて適切な温湿度管理をおこなったり、常に清浄にしたりする必要がありますが、燻蒸をすることも大切な仕事です。

燻蒸は、主に防虫・殺虫をおこなうための作業で、専用のテントのなかに資料を入れて、そこに薬剤を投入して一定期間密閉します。そうして、資料に潜んでいる虫を殺してしまいます。今回はテントの中に炭酸ガスを投入し、二酸化炭素濃度を高めて殺虫しました。昨年度は主に登録有形民俗文化財を対象としましたが、今年度は民具資料や寄贈資料など、340 箱以上をテントに搬入し、2 週間かけて燻蒸をおこないました。今後も定期的におこない、常に資料を安定した状態で収蔵し、多くの研究者の方に活用してもらったり、展覧会で展示したりできるようにしていきたいと思ひます。（並木）

写真 上：テントのなかに燻蒸する資料を搬入した状態
写真 下：テントを密閉している状態

今後の予定

●展覧会

武庫川女子大学附属総合ミュージアム 2025 年度秋季展

加齢の美学

ライフログ

ー大阪町家における静さんの暮らしの記録ー

会 期 2025 年 10 月 1 日（水）～ 12 月 3 日（水）

開館時間 10:00 ～ 16:30

会 場 武庫川女子大学附属総合ミュージアム

（学術研究交流館（IR 館）5 階ギャラリー）

入 館 料 無料

休 館 日 土・日・祝日

（ただし 10 月 4 日・5 日・11 日・12 日・25 日・11 月 8 日は 10:00 ～ 15:00 開館）

当館には、大阪・美章園で町家暮らしをしていた一人の女性・中田静さんの生活財一式の寄贈を受け、「中田家コレクション」として活用しています。静さんは日々の買い物や出来事などを手帳に細かく記録していました。それは「家計簿」という枠を超えて、「暮らしの記録」ともいえるものです。このたびの展覧会では、静さんが残したノートから、「加齢の美学」を様々な角度から読み解きます。

●講演会・イベント

どのイベントも参加費無料です。ぜひお気軽にご参加ください！
お申し込み方法など、詳細はミュージアムの HP をご確認ください。

・ 9 月 12 日（金） 13:30 ～ @IR-101

第 2 回現物調査研修会「実例に基づくミュージアムの収蔵環境整備についてー防虫・防カビ対策を中心にー」（講師：イカリ消毒株式会社 江副陽一氏）

・ 10 月 15 日（水） 14:00 ～ @生活環境 2 号館 3 階プレゼンテーションルーム

秋季展関連講演会「静さんのアチックミュージアム」（講師：元国立民族学博物館 佐藤浩司氏）

・ 12 月 1 日（月） 13:05 ～ @浜甲子園キャンパス P3-22

学芸員課程関連講演会「わたしたちの博物館Ⅱ 学芸員の仕事の多様性」（講師：追手門学院大学教授 瀧端真理子氏）

・ 10 月 25 日（土） 13:30 ～ @IR-101

研究交流会 …ミュージアムの研究員・共同研究員が現在取り組んでいるテーマや興味のある内容について発表します。

武庫川女子大学附属総合ミュージアム Museum News no.13 2025 年 9 月発行

663-8558

西宮市池開町 6-46 学術研究交流館（IR 館）4・5 階 Mail haku@mukogawa-u.ac.jp

TEL (0798) 45-3509 / FAX (0798) 45-9994

HP <https://www.mukogawa-u.ac.jp/~museum>

Museum
HP



MAP



ニュース内で使用しているイラストは附属総合ミュージアムで作成しました